### 4. 古図からみる栗林公園

### ■御林御庭之図 元禄13年(1700)年

栗林荘を描いた絵図としては現在最古のものです。

図は西湖や涵翠池など紫雲山に接する一帯の水域がとても広く記されているのが特徴で、当時はまだ豊富な伏流水が湧き出るなど河川の名残があったものと推測されます。

また、すでに大茶屋(後の掬月亭)の姿も認められ、 基本的な構成が完成していることがわかります。

### コラム: 初代藩主は黄門様の兄君!?

江戸時代初期、当時讃岐を治めていた生駒家がお家騒動により出羽へ転封になったあと、水戸徳川家初代頼房の長男(徳川家康の孫)である松平頼重公が、三代将軍家光から12万石を与えられて入封、高松藩が成立しました。

これより以降、栗林公園(当時は栗林荘と呼ばれていました)は松平家の別邸として使用され、歴代藩主によって修築が重ねられていきます。

なお、水戸徳川家は頼重の弟で、水戸黄門で知られる光 圀が跡を継ぎましたが、光圀はその後継に頼重の子を迎え入れ、代わりに自身の子(頼常)を頼重の養子として高松藩を継がせました。



#### ■栗林図 弘化元年(1844)年

精密な絵図"栗林公園古図"

延享2年(1745年)に、中村文輔が"栗林荘記"を記した折、すなわち"栗林荘"として完成した時の姿を表しています。



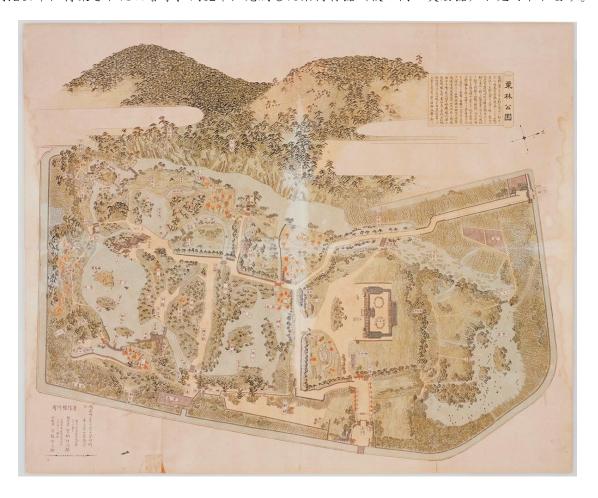
## ■栗林分間図 文政7年(1824)年

当時の家老であった芦沢元徴が作製した初めての実測図"栗林分間図"。

時代と共に作画手法は徐々に移り変わりますが、南庭はほぼ現在の姿と変わらず、北庭には 檜御殿が表現されているのが特徴です。



■栗林公園 明治32年 (1899) 年 明治31年に再築された日暮亭、同32年に完成した県博物館(後の商工奨励館)が見て取れます。



### ■讃岐高松栗林公園真景 明治37年(1904)年

初版の公園案内図です。江戸時代の大名庭園から、公園として一般公開され誰もが訪れることのできる場所となったことがわかります。



### ■栗林公園真景 大正年間

明治44年から着手されていた北庭の大改修が、大正2年に完成。この頃全国的に入ってきた洋風思想の影響から、運動場、芝生広場、大規模園路などを取り入れた構成となり、現在の北庭の姿となりました。



# 5. 写真でみる栗林公園 ~明治から昭和にかけて~



紫雲山から掬月亭を望む|推定明治時代



明治から大正時代頃~南湖



明治から大正時代頃~芙蓉沼



紫雲山から玉藻城|推定明治時代



明治から大正時代頃~偃月橋



明治から大正時代頃~北門(檞口御門)



明治から大正時代頃~梅林橋と北湖



明治から大正時代頃~商工奨励館



昭和中期の航空写真~東門附近



明治から大正時代頃~掬月亭



明治から大正時代頃~北湖



昭和中期の航空写真~全景